

桜花昇ぼるさんは、正統派2枚目から
ワイルドな役まで幅広くこなす。
(写真提供:株式会社OSK日本歌劇団)

がんばれOSK!

堀井 今回はOSK日本歌劇団のトップスター・桜花昇ぼるさんをお招きして、大阪歴史博物館にやってきました。

脇田 ようこそおいでいただきました。OSKといえば、私は子どもの頃、春や夏になるとよく父に連れられて千

日前の大劇(大阪劇場)へ、季節の踊りを観に行きましたよ。

桜花 そうですか。それはいつ頃ですか。

脇田 昭和12年に大阪市立曾根崎小学校に入ってからです。大劇の賑わいは、子ども心によく覚えています。

桜花 OSKのレビューが全盛を極めていた時代ですね。大劇は3000人収容のマンモス劇場で、入場待ちのお客様が劇場の周りを3重にも4重にも並ばれたと聞いています。

堀井 笠置シズ子や京マチ子など、ここからたくさん国民的スターが生まれました。

桜花 皆さんOSKの出身です。脇田先生の小学生時代といえばアーサー美鈴がOSKのスターで、SKD(松竹歌劇団/東京)の水の江瀧子さんと並び、「東のターキー、西のアーサー」と呼ばれていました。

脇田 そうそう。水の江瀧子が来たときは、「ターキー、ターキー」という観客の掛け声で劇場が割れんばかりでした。戦争がはじまって中学生はレビューを見ることを禁止されてしまいましたが、終戦で解禁になると「それっ」とばかり観に行ったのを覚えています。

桜花 大劇の全盛期をご存知の方のお話はとても貴重なので、心に刻んでおきたいと思います。

堀井 大正12年、道頓堀に大阪松竹座ができて、そのとき生まれたOSKというのは大阪の演劇文化の歴史に残る貴重な存在ですね。それが今日まで続いているというのは大変素晴らしいことで、このかけがえのない大阪の文化を絶やさないために、私たちもしっかり応援していきたいと思っています。

桜花 ありがとうございます。大阪松竹座の柿落としてレビューをしたのが、OSKの前身である松竹楽劇部でした。私たちは今、そうしたOSKが一番華やかだった頃にもう一度戻したいという思いで、活動させていただいています。

堀井 とくに近年は、OSK存続のために、いろいろご苦労されたと聞いています。

桜花 昭和32年に松竹から独立し、昭和46年以降は近鉄グループの子会社と

なって近鉄あやめ池遊園地の円型大劇場を本拠地としていました。その後、経営が難しくなって平成15年に解散したのですが、ありがたいことに私の上級生の方々が立ち上がって存続の会をつくれ、OSKの生まれ故郷である大阪に帰ってきました。そうして昨年2月から株式会社OSK日本歌劇団として独立し再出発しました。現在は公演回数も少しずつ増えてきています。

堀井 新しいOSKに大いに期待しています。是非がんばってください。私たちも、大阪が誇るOSKの素晴らしいエンターテインメントを盛り上げたいと思います。ところで桜花さんはどのようにしてOSKと出会ったのですか。

桜花 私は奈良県斑鳩町の出身で、母がOSKの舞台を見るのが大好きでした。家族アルバムには、まだ1歳にもならない私があやめ池遊園地の円形大劇場の前で母に抱っこされている写真があります。子どもの頃はあやめ池遊園地へよく連れていってもらいましたが、いつも遊園地は早く切り上げてOSKの舞台を観ていました。

堀井 OSKに入ろうと思われたのはいつ頃からですか。

桜花 OSKを志したのは高校生のときか



桜花昇ぼる(おうかのぼる)氏

奈良県斑鳩町出身。1993年OSK日本歌劇団入団。2008年「ミュージカル真田幸村」で主役を演じ、大阪松竹座でトップ披露公演、京都南座での源氏物語の薫の君で一躍話題に。170cmの長身を活かしたダイナミックなダンスと守備範囲の広い演技力、歌・踊り・芝居を巧みに披露する実力派。OSK日本歌劇団を背負うトップスターとして期待がかかる。

桜花昇ぼるさん(左)

(写真提供:株式会社OSK日本歌劇団)

